



南アジアでヒンドゥー教が広まったのはなぜか？

関連教科 世界史探究 (南アジアの歴史的特質)

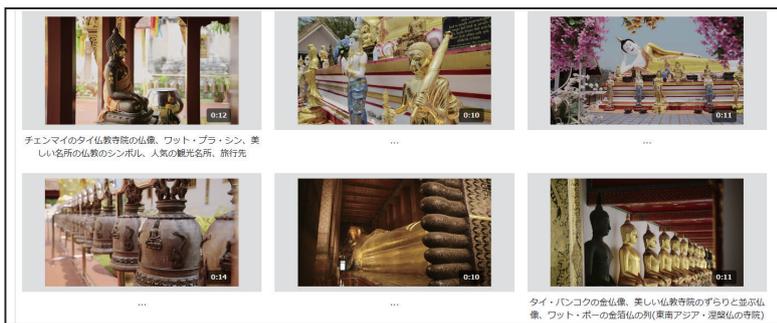
仏教は紀元前 5 世紀ごろに南アジアで成立したが、やがて生まれたヒンドゥー教に吸収されて衰退していった。南アジアではなぜヒンドゥー教が定着したのか、仏教と比較しながら、その理由を考えてみよう。

生徒の活動

- 1 Britannica・オンライン・ジャパンなどで「仏教」「ヒンドゥー教」について調べてみよう。検索結果の「仏教——リスト集」「ヒンドゥー教——リスト集」をクリックすると、キーワード（関連項目）がまとまっているので調べやすい。
リスト集とは…該当テーマについて調べ学習や探究学習を行なううえで、必要な関連項目をまとめたページ



- 2 「仏教」と「ヒンドゥー教」を対比して、調べた情報を整理しよう。そこから、それぞれの宗教のどんな特色が見えてくるだろうか。
- 3 さらに、Britannica ImageQuest で「仏教」「ヒンドゥー教」を検索し、②でまとめた特色を説明できるような写真やイラスト・動画がないか、探してみよう。



左は Britannica ImageQuest を使って「仏教」で検索したときの動画の検索結果画面

- 4 これまでの学習を踏まえ、「ヒンドゥー教」が南アジアに定着した理由を考えてみよう。またその内容を、③で使った資料を提示しながら、ペアやグループで共有しよう。

活動時のアドバイス

- 探究学習の過程で、ヒンドゥー教は土着信仰と結びついて生まれた宗教で、民衆の日常生活と深くかかわっていたという特徴を押さえるよう促しましょう。
- 探究学習の際のツールとして、Britannica・オンライン・ジャパンだけでなく、Britannica School（英語版データベース）を使用することで教科横断の学習ができます。生徒に「Buddhism（仏教）」「Hinduism（ヒンドゥー教）」の語を検索させて、英文から情報を読み取る活動にも挑戦させてみましょう。